

(仮) 浜益冬のおんしん事業

課題

- 地域協議会「高齢者に優しいまちづくり」での意見
- ・福祉除雪サービスの担い手不足と高齢化、ルールの徹底
 - ・浜益の住宅は公道までの距離が長い
 - ・近所の助け合い(人力)では限界がある
 - ・有料でも除雪サービス業者がいればいいな
 - ・マンパワーを補う重機や除雪機があれば負担感が少ない
 - ・雪捨て場の確保
 - ・仕事としてお金がもらえるシステム

課題解決のために必要なこと(要素)

- ・自治会の共助の力、情報力の活用
- ・困ったときのセーフティネットとして動けるモノの確保
- ・地域で重機を持ちボランティアで除雪している人の協力

具体的な手法

- (例えば)
- ・雪捨て可能な場所と不可能な場所の情報把握する方法は？
 - ・除雪機貸し出しシステム
 - ・重機でボランティア除雪されてる方への燃料費補助とか
 - ・実施主体は？

(仮) 浜益web情報館「浜益宝庫」事業

課題

地域協議会「高齢者に優しいまちづくり」での意見

- ・文化を伝承する映像の保存
- ・地元の文化・芸術

※ 荘内藩陣屋研究会の方々・人形作家の方・沖揚げ音頭・奴・川下八幡神楽
・浜益音頭保存会・浜益豊漁太鼓・浜益小劇場

・地元の歴史(古老から歴史を学ぶ・浜益昔ばなしの更新)

※ 高齢者から昔の話、こぼれ話、よもやま話。戦争やニシン場、学校の話など

・たくさんの自然

・地域に開かれた学校

※ 様々な職種、年齢層の方々に学校へ関わってもらう。地元愛、自分の家族の成り立ち等、様々な学びへ。

課題解決のために必要なこと(要素)

- ・区民カレンダーに掲載された古い写真のデジタル化
- ・古き良き浜益の街並みの写真収集
- ・古い時代の8mmフィルム等の映像収集
- ・NPO法人 ezorock による集落の教科書
 - ※ 関係人口層が浜益の中に入り浜益の情報を外部目線で製作
 - ※ 今後も様々な内容を盛り込み更新される
- ・移住、定住を考える方々に浜益の基礎知識を
- ・浜益に来るボランティアの方々へのPR
- ・子どもたちのデジタル教育の発展
- ・廃村危機にある集落の今を残す

具体的な手法

(例えば)

- ・記憶を記録に残す
- ・伝えたいものを誰もが見られる形に
- ・地場産品のPR
- ・絶景のPR
- ・浜益独自の取り組みの紹介
- ・児童、生徒企画の学校が発信するコーナー
- ・実施主体は？

(仮) 浜リハウス事業

課題

地域協議会「高齢者に優しいまちづくり」での意見

- ・危険空き家が増えている
- ・危険空き家の注意喚起と情報共有が必要
- ・歴史的古民家を手放す時期が来始めた

課題解決のために必要なこと(要素)

- ・解体を望んでいても、どうしたらいいかわからない人も多い
- ・移住定住アドバイザーの存在
- ・浜ワークで働き、移住するスタイルができた
- ・慢性的な住宅不足
- ・古民家とは古ければ良いってもんじゃない
- ・借りたいと思う空き家の見せ方を考える
- ・築100年以上の住宅は家族の成り立ちなどの情報も魅力の一つ

具体的な手法

(例えば)

- ・空き家バンクとして機能
- ・空き家の活用法
- ・古民家の活用法
- ・空き地の活用法
- ・空き家の維持管理について
- ・集落支援員のかかわり

(仮)防災浜リュック事業

課題

- 地域協議会「高齢者に優しいまちづくり」での意見
- ・川下自治会からの要望 防災リュックの全戸配布
 - ・全戸配布となれば基金事業に当てはまるが自己負担はどうする
 - ・非常食等は避難所にあるうえ、更新費用の負担が必要
 - ・避難が難しい人を共助や支所の力で助ける
 - ・避難するとき、避難した時の防災備品ではどうか
 - ・持ち歩きやすいものが良いのでは
 - ・防災意識を高める目的も

課題解決のために必要なこと(要素)

- ・防災に備える意識と助け合いの意識を高める目的
- ・最低限必要なグッズは何か
- ・サイズとしてはさっと持ち歩ける、両手をふさがらない物
- ・通帳等貴重品程度も入ると便利

具体的な手法

- (例えば)
- ・避難するときに直面する困難は何か
 - ・自己負担してでも必要なものとは何か
 - ・バッグ自体に反射材がついていればより安心
 - ・ヘッドライト、ラジオ、十徳ナイフ、携帯用簡易トイレ、軍手とか？
 - ・実施主体は？